

# 「公立学校優良施設賞」受賞小学校にみる可動家具の利用実態

日大生産工(院) ○阿部 紀子

日大生産工 広田 直行

## 1. 背景と目的

学校の教育活動は、各学校における創意工夫を生かした特色ある教育活動の中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育を目指している。このことから、教育の個性化・個別化を図り、多様な学習形態を展開する教育のオープン化を図る事例が増加している。

また、文部科学省による多目的スペースの設置に対する補助基準面積の加算がおこなわれたため、オープンスクール等の教育のオープン化による多様な学習形態の展開に対応できる施設空間がその後新設された小学校に急増している。しかし、物理的な空間がオープンになるばかりであり、本来必要とされた教育のオープン化は進んでいない状況にある。

そこでこの教育のオープン化による多様な学習形態の展開に対応できる施設のもつオープンなスペースにおいて多様な学習形態を展開するべく、空間をしつらえることができる可動家具に着目する。

予備調査の千葉市のオープンスペースを有する9事例に対する可動家具利用実態調査により、その実態はオープンスペースが活かされず可動家具を有効活用する事例が少ないという結果を得ている。これより、多様な学習環境をもつ学校施設にみる可動家具利用実態

調査を行い、可動家具設置計画情報を整理する必要があると考える。本稿では、多様な学習環境をもつ学校施設にみる可動家具利用実態調査の対象を選定するため、多様な学習が展開される教育のオープン化の実施状況を把握する指標をつくる。また、教育のオープン化と可動家具の関係性を分析する。

## 2. 調査方法

### 2.1 調査対象選定の概要

(社)文教施設協会主催、文部科学省の後援により昭和63年から実施されている公立学校優良施設賞受賞校の中で、特に多様な学習空間部門やうるおいのある教育施設部門といった部門で過去10年内の受賞小学校123事例を対象とする。

この賞は、全国で整備される公立学校の補助基準面積等の条件の下で、地域や学校の実情に応じ、その特色を生かす創意工夫がなされた施設の中から、計画・設計の優れた施設を表彰するものである。このため対象小学校は多様な学習環境をもつ学校施設として位置づけることができると考える。

### 2.2 アンケート調査概要

調査方法はアンケート調査とし、詳細を表1に示す。多様な学習に関しては、従来の1教師が1学級の児童に行う一斉授業という形式からどれだけ枠組みをはずし個別化・個性

---

Utilization of the movable furniture in "public school superior institution prize"  
award elementary school

Noriko ABE and Naoyuki HIROTA

化を図れるかという観点から、教育をオープン化する方法を、教師のオープン化・教科のオープン化・集団のオープン化・時間のオープン化の4種に分け、それらに対応する学習について実施の有無やその内容、可動家具に関する質問を行う。さらに平面プランに関する情報を得た上で、回答を得た50校における教育のオープン化の実施状況の把握や教育のオープン化と可動家具の関係を分析する。

表1 アンケート調査概要

| 調査概要     |                                            |             |
|----------|--------------------------------------------|-------------|
| 調査対象     | 過去10年間の「公立学校優良施設賞」受賞小学校のうち多様な学習環境のある事例123校 |             |
| 調査方法     | アンケート調査                                    |             |
| 調査日時     | 2004年 5月10日～9月10日                          |             |
| 回答数      | 50校 40%                                    |             |
| アンケート内容  |                                            |             |
| 基礎情報     | クラス数                                       |             |
|          | 可動家具設置数                                    |             |
| 多様な学習別情報 | 集団のオープン化による学習                              | 実施の有無       |
|          |                                            | 実施頻度        |
|          |                                            | 可動家具使用数     |
|          |                                            | 可動家具配置替え頻度  |
|          | 教師のオープン化による学習                              | 可動家具配置替え実施者 |
|          |                                            | 実施の有無       |
|          |                                            | 可動家具使用数     |
|          |                                            | 可動家具配置替え頻度  |
|          | 時間のオープン化による学習                              | 可動家具配置替え実施者 |
|          |                                            | 実施の有無       |
|          |                                            | 実施頻度        |
|          | 教科のオープン化による学習                              | 可動家具使用数     |
|          |                                            | 実施の有無       |
|          |                                            | 可動家具使用数     |

表2 教育のオープン率の評価指標

| 教育のオープン化 |                 | 内容                                                                     | 評価方法                                                                                |
|----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| A        | 教師のオープン化による学習   | 複数の教師により複数の目で児童一人一人の価値観を評価する学習→TT(ティームティーチング)                          | 実施有り：1点<br>実施無し：0点                                                                  |
|          | 教科のオープン化に対応した学習 | 複数の教科を組合せ一つの授業で総合的に双方を学習する                                             |                                                                                     |
|          | 集団のオープン化による学習   | 1学級内で少人数の集団をつって行う学習→グループ学習<br>複数学級が混合した状態で学級以外の大小様々な集団をつくって行う学習→グループ学習 | 1/日：4点<br>1/週：3点<br>1/月：2点<br>1/学期：1点                                               |
|          | 時間のオープン化による学習   | 1限という枠にとらわれず、複数時限使った学習                                                 |                                                                                     |
| B        | 空間のオープン化による学習   | 教室に連続する部分に多目的なオープンスペースがあり、教室と多目的スペースの両方または教室のみ・多目的スペースのみを使って行われる多様な学習  | 上記4種の各学習において<br>連続するOPENな空間の両方使っている：2点<br>OPENな空間を使っている：1点<br>学外又はCLOSEな空間を使っている：0点 |
| C        | 一斉授業による学習       | 従来型の1教師による1学級の児童に対し一斉に行う講義                                             | 1学級の週あたり平均一斉授業数<br>0～5時間：3点<br>6～13時間：2点<br>14～21時間：1点<br>22時間以上：0点                 |

### 3. 「教育のオープン化率」について

教育のオープン化の実施レベルやその内容を把握することは、各学校方針や各教員の裁量によって違いがあるため難しい。そこで、本稿では表2に示すように評価方法を設定し、点数化することで教育のオープン化の実施状況を把握する。加点する際の評価項目の組合せとして、A限定 AB AC ABCの4通りの評価を行う。ここでは未回答項目のある小学校を除く40校を対象とする。

表3に示すとおり、4評価の上位6校の小学校が固定しており最も教育のオープン化が進んでいるのが分かる。これらをaグループとする。ラインAはその境界を示す。ラインBは4種の評価それぞれにおける最高評価点の半分以上獲得した小学校の境界を示す。4評価全てにおいて、ラインA以下B以上に当てはまる小学校をbグループ、ラインB付近を±1点の範囲で上下する小学校をcグループとする。よって、aグループ6校、bグループは9校、cグループは9校、全21校を可動家具利用実態調査の対象事例とする。これは、全50校の4割を占める。

例外として、未回答項目や図面報不足の小学校に関して以下に別記する。これらの小学校の中で最も多様な学習を高頻度で展開して

いる小学校は KM 校 , 次いで OI 校と DJ 校であり , オープンスペースを有効に活用している小学校は OI 校 , 次いで KS 校である。また , 表 3 において図面情報不足のため評価 1 以下では評価点が下がるが , 空間を考慮しない評価

では高得点をもつ小学校 TY 校・NT 校を含め , 以上 6 校についても可動家具利用実態調査の際には c グループに含める。

各学習種類別に実施率をみると表 4 より , どの学習も実施率は 5 割以上であるが , 教科のオープン化による学習のみ極めて実施率が低いことが分かる。これは担任の教員が複数教科を相互に学習できる学習プランを計画するのは手間がかかるためと考える。

#### 4. 教育のオープン化と可動家具の関係

##### 4.1. 設置可動家具と使用可動家具

従来の様々な枠組みを超え , オープンなスペースにおいて多様な学習を展開する際 , 可動家具を用いて多様な空間を随時作りだすことは教育のオープン化を促進するために有効であると考え。そこで , 2 章でまとめた教育のオープン化の実施状況を把握するための評価指標の中で , 教育と空間のオープン化を考慮し一斉授業を考慮しない の評価指標に注目する。

表 5 は , 評価指標 1 の評価点を降順に並べた小学校と設置可動家具・教育のオープン化に使用する可動家具の関係を示す。

設置家具数は平均 8.2 台で , 教育のオープン化の実施レベルにかかわらずばらつきがある。使用家具に関しては利用実態調査事例とした上位 23 校の使用家具平均 3.8 台であるのに対し , その他 17 校の使用家具平均 1.7 台であり , 差が約 2 台ある。設置家具数と使用家具数の平均値を比べると , 全国で 4.4 台の活用されない家具があることが分かる。使用家具の内訳は表 6 に示したように机・テー

ブル・椅子の 3 種類が最も多い。ここで , 椅子よりもテーブルが多く使われているのは , 全体 50 校のうち 82% の小学校が床座による学習を行っていることに起因すると考える。

#### 4.2 可動家具の利用状況

教育のオープン化に対応する学習 4 種それぞれの実施率を比較すると , 表 4 より集団

(1 学級内におけるグループ学習) のオープン化による学習が実施率 74% と最も高い。

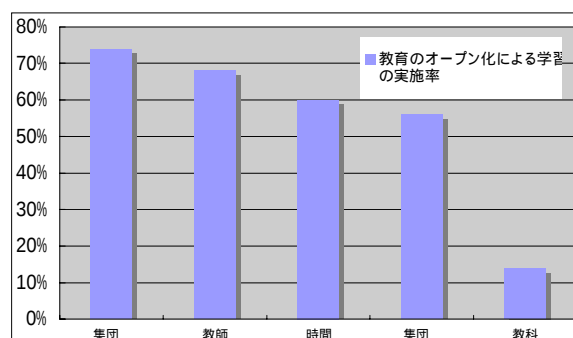
よって以下は集団 1 のオープン化に関して

表 3 教育のオープン化評価指標別小学校

| ・ A 限定  |    | ・ AB |    | ・ AC |    | ・ ABC |    |
|---------|----|------|----|------|----|-------|----|
| 小学校     | 評価 | 小学校  | 評価 | 小学校  | 評価 | 小学校   | 評価 |
| 山梨県 WK  | 12 | AN   | 21 | NG   | 15 | NG    | 22 |
| 福島県 YD  | 12 | WK   | 20 | WK   | 12 | AN    | 21 |
| 愛知県 NG  | 12 | YD   | 19 | YD   | 12 | WK    | 20 |
| 滋賀県 TO  | 12 | NG   | 19 | TO   | 12 | YD    | 19 |
| 富山県 NZ  | 12 | TO   | 18 | NZ   | 12 | TO    | 18 |
| 北海道 AN  | 11 | NZ   | 18 | AN   | 11 | NZ    | 18 |
| 福岡県 TG  | 11 | AR   | 18 | TG   | 11 | AR    | 18 |
| 山形県 TY  | 10 | TR   | 17 | AK   | 11 | AK    | 17 |
| 岡山県 SK  | 10 | HN   | 15 | HN   | 10 | TR    | 17 |
| 宮城県 NT  | 9  | SK   | 15 | TY   | 10 | HN    | 16 |
| 埼玉県 HN  | 9  | TG   | 15 | SK   | 10 | SK    | 15 |
| 岩手県 AK  | 9  | AK   | 15 | NT   | 9  | TG    | 15 |
| 佐賀県 TR  | 9  | MG   | 14 | TD   | 9  | MG    | 14 |
| 秋田県 KT  | 8  | N    | 13 | TR   | 9  | N     | 13 |
| 長野県 KM  | 8  | MN   | 13 | KT   | 8  | TD    | 13 |
| 山梨県 MZ  | 8  | KT   | 11 | KM   | 8  | MN    | 13 |
| 栃木県 N   | 8  | MZ   | 11 | MZ   | 8  | KT    | 11 |
| 青森県 AR  | 8  | OT   | 11 | N    | 8  | MZ    | 11 |
| 青森県 MG  | 7  | YK   | 10 | AR   | 8  | OT    | 11 |
| 沖縄県 KN  | 7  | KN   | 10 | MG   | 7  | YK    | 10 |
| 長崎県 IS  | 7  | IS   | 10 | WN   | 7  | KN    | 10 |
| 福島県 MN  | 7  | TY   | 10 | KN   | 7  | IS    | 10 |
| 茨城県 OT  | 7  | TD   | 10 | IS   | 7  | TY    | 10 |
| 兵庫県 YK  | 6  | IN   | 10 | MN   | 7  | IN    | 10 |
| 鹿児島県 TD | 6  | NT   | 9  | OT   | 7  | WN    | 9  |
| 和歌山県 IN | 6  | OK   | 8  | YK   | 6  | NT    | 9  |
| 福島県 NM  | 5  | KM   | 8  | KW   | 6  | OK    | 8  |
| 和歌山県 NG | 5  | KK   | 8  | IN   | 6  | KM    | 8  |
| 長崎県 OK  | 5  | MK   | 7  | WG   | 5  | KK    | 8  |
| 新潟県 WN  | 4  | WN   | 6  | NM   | 5  | MK    | 7  |
| 宮城県 KK  | 4  | NM   | 5  | NG   | 5  | KW    | 8  |
| 岩手県 MK  | 4  | NG   | 5  | OK   | 5  | WG    | 5  |
| 鳥取県 YS  | 3  | YS   | 3  | NS   | 5  | NM    | 8  |
| 岩手県 NS  | 3  | HT   | 3  | KK   | 4  | NG    | 8  |
| 岡山県 KW  | 3  | NS   | 3  | MK   | 4  | NS    | 8  |
| 岩手県 WG  | 2  | KW   | 3  | AS   | 3  | AS    | 3  |
| 石川県 HT  | 2  | WG   | 2  | YS   | 3  | YS    | 3  |
| 岐阜県 AH  | 1  | AH   | 2  | MY   | 3  | HT    | 3  |
| 岩手県 AS  | 0  | AS   | 0  | HT   | 2  | MY    | 3  |
| 熊本県 MY  | 0  | MY   | 0  | AH   | 1  | AH    | 2  |

■ 先進事例  
■ 準先進事例  
■ 準先進事例  
■ 図面情報無し

表 4 教育のオープン化による学習の実施率



可動家具の利用状況をみる。

可動家具は随時動かして多様な空間を作ることができるが、その特性を活かして利用する事例は 43%である。

配置換えを行う事例における可動家具の可動頻度については、最も多いのが週に 1 回動かす事例 55%、毎日動かすという事例は 15%である。

可動家具の配置換え実施者をみると、教師と児童が共同で動かす事例が最も多く 86%、次いで教師のみが動かす事例と児童のみが動かす事例はともに 10%である。

また、可動家具の配置替えを行う時期については、学習前の休み時間に行う事例が最も多く 67%、次いで授業中に行う事例が 52%という結果を得た。(休み時間・授業中のどちらも行ふ事例を含む)

## 5.まとめ

オープン教育の実施状況を把握するための指標を提案し、教育のオープン化を実施する先進事例を抽出することができた。

また、教育のオープン化と可動家具の関係として以下の 4 点が明らかとなっている。

教育のオープン化が最も進んでいる a グループでも、使用する可動家具は平均 3.8 台で机・テーブル・椅子・掲示板の順に使用率が高い。

設置家具と使用家具には差があり、教育のオープン化による学習時であっても使用しない可動家具が平均 4.4 台で、使用家具数平均は設置家具数平均の 1/2 である。

家具の配置替えを行う小学校は全体の 43%であり、その中で可動家具を動かす頻度は週に一度という小学校が最も多く 55%である。

可動家具の配置替えは学習前に事前行う事例 86%、教師と児童が準備する事例 67%である。

表 5 小学校と設置可動家具・利用可動家具の関係

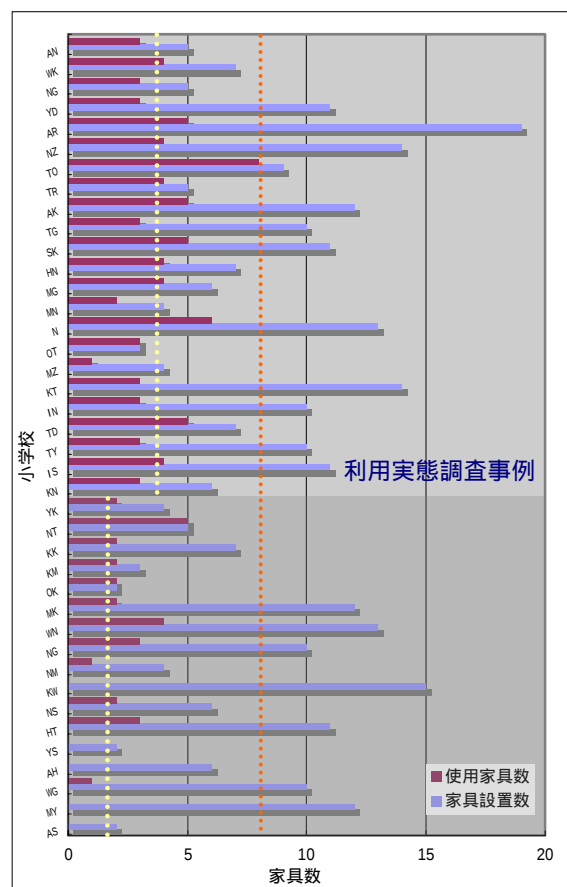
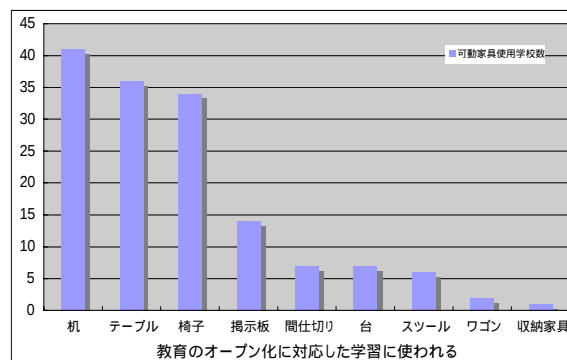


表 6 可動家具別使用学校数



## 【参考文献】

霜田昌編、「文教施設」 6 号 2002 年, 10 号 2002 年  
 社団法人文教施設協会  
 社団法人文教施設編「教育と施設」33 号 37 号 41 号  
 45 号 49 号 53 号 57 号 61 号 65 号 69 号 73 号 1991 ~  
 2001 年 社団法人文教施設協会